

す

<

す

<

85号



東京都済生会中央病院附属乳児院 2023年度 第4号 2024. 1. 1発行

東京都済生会中央病院附属乳児院 院長 岡尾 良一

新年あけましておめでとうございます。今年も元旦に子どもたちと元神明宮へ初詣に行ってきました。当院にとって大きな節目となる年です。いつも以上に厳かな気持ちで新年を迎えました。

当院は、今年1月に創立100周年となります。関東大震災で被災した妊産婦や乳幼児の救護のため、大正13年（1924年）に開設されました。「診療も入院も無料でできます。育児相談にも応じます。」と看板が立てられ、最大で143名の乳幼児がいたそうです。

さらに、終戦後は各地で置き去りにされる子どもが絶えず、「みだりに児を捨ててはいけません。やむをえず捨てる人は、この台に。」と張り紙をして、その下に寝台を置いたそうです。しかし、玄関にあったその寝台ではなく、待合室や廊下の椅子の隅に置いていったそうです。その様子から、「児を置いていく親の切々とした思いと、なまやさしい決心ではないことを知った」と、当時の院長が書き残しています。そして、「すてるほど困り抜いている人とは相談したい。」と張り紙を変え、寝台を引っ込めたとありました。

子育てに困ったら誰もが相談できる、乳児院が心の拠り所であり続けられるよう、先人たちの思いを受け継ぎ101年目をスタートしたいと思います。

日頃より乳児院の活動にご理解とご支援をいただいている関係者の皆様には、改めて感謝申し上げます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

看護師長 小泉 菜穂子

理 念

「済生の精神」に基づいた思いやりのある養育の提供を通じて社会に貢献します。
（「済生の精神」とは、分け隔てなくあらゆる人々に医療・福祉を差し伸べることです）

基 本 方 針

「子どもニーズ 子どもファースト」

私たちは、常に子どものことを第一に考え、子どもの目線に立ち、
子どもの気持ちの代弁者として実践し、一人ひとりの子どもの最善の利益を追求していきます。

1. 子どもが安心できる環境の中で、個性を尊重し、愛情を注いで養育します。
2. 愛着関係を大切にし、情緒豊かな子どもに育てていきます。
3. 感動や成功体験を通し、子どもの自立心を養っていきます。
4. 子どもの成長の喜びを保護者と共有し、親子関係を大切にしながら養育します。



うんどうかい

9月21日に運動会が行われました。子どもたちは体操服に着替え、紅白帽子を被って入場しました。会場に着くと装飾されていていつもと違う雰囲気の部屋に緊張している様子でした。低月齢児は最初「おふねをこいで」「きゅうりができた」のふれあい遊びを行いました。ニコニコと笑い、緊張がほぐれていつもの笑顔が見られました。音楽に合わせて動くパラバルーンのカラフルな布を、夢中になって目で追いかけていました。手作りのマラカスが配られると興味津々で振って音を鳴らすのを楽しみ、最後はメダルを首にかけてもらいました。子どもたちの様々な表情が見られた運動会となりました。

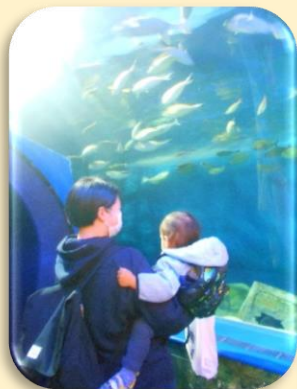
保育士 藤塚 のあ



秋のえんそく

さわやかな秋晴れのもと、バスに乗ってこどもの国へ遠足に行きました。普段のお散歩で行く公園とは比べ物にならないほど開放感のある芝生広場では、思いっきり体を動かして楽しみました。高月齢の子は芝生の斜面を自分の足で登り、頂上に到着すると達成感に満ちた顔で「おーい！」と大きな声で麓にいるお友だちに声を掛けていました。また子ども動物園では絵本で見た牛やヤギなどの大きな動物と対面し、緊張しながらも真剣に餌やりをする子や、「赤ちゃん可愛いね」と動物の赤ちゃんを可愛がる子など微笑ましい子どもたちの姿が見られました。帰ってきてからも遠足での出来事を楽しそうに話し、子どもたちにとって素敵な思い出となりました。

保育士 田村 友菜



ユニットごとに遠足を企画し



さまざまな場所へ行きました



各居室の子どもたちの日々のエピソードをお届けします

たんぽぽ



先日 A くんは見つけたタンポポをお尻のポケットに入れ、鉄棒にぶら下がって遊んでいました。隣にいたBちゃんがそのタンポポに気が付き、抜き取って大人の方に嬉しそうに逃げてきました。「しっぽして」と。すると、Aくんも「待て待て！しっぽ！」と笑顔で追いかけて始めました。さっきまで『取られた』と悲しかった気持ちが、楽しい気持ちに変換された微笑ましい瞬間でした。

保育士 岡村 理恵



ひまわり



近隣のホテルで行われた子ども向けのハロウィンイベントに参加しました。仮装用のマントに身を包み、少し緊張しながらもホテルのスタッフさんからお菓子をいただきました。イベント終了後はトイザらスにお買い物へ。並んでいるたくさんの玩具に目を輝かせながら店内を探索しています。お目当ての図鑑とパズルを無事に見つけて、購入することができました。

保育士 梨澤 真子



こすもす



子どもたちはプレイルームでのお遊びも大好きで、「プレイルーム行くひと？」と聞くと「はい！」とお返事してくれます。クッションマットの滑り台で遊んだり、動物クッションにまたがったりしながら楽しんでいます。他にもフラフープや大型ボール等、沢山の遊具で元気いっぱい遊ぶ子どもたちの目はキラキラ輝いています。

保育士 恩田 春花



あさがお・ちゅーりっぷ



ベビーチェアに座る笑顔にビデオカメラの焦点を合わせ「Aちゃん初めての離乳食です、あーん。」と、私は録画ボタンを押します。看護師さんが真正面からスプーンでそっと唇に触れると、Aちゃんはビクッと目を丸くし、慌ててペロペロっと舐めました。少し間があった後、大きくニコッー！私も看護師さんも「美味しいね！」と笑いあい、賑やかなワンシーンが記録に残りました。

保育士 樋口 麻友子



～新入職員紹介～



子どもたちが未来に希望を感じられるように頑張ります。（社会福祉士）



子どもたちが毎日楽しく過ごせるように頑張ります。（看護師）



たくさんの あたたかなご支援を ありがとうございます



当院の創立 100 周年記念にお寄せいただきました寄付金で、1 階庭園に「はらぺこあおむし」の大型遊具を設置しました。子どもたちは大喜びで、毎日元気いっぱい遊んでいます。



東京芝ロータリークラブ 様より
クリスマスプレゼントのご寄付をいただきました。



フレデンシャル生命保険株式会社 様より
毎月バースデーケーキのご寄付をいただいております。



支援室だより

支援室では、家庭支援専門相談員、里親支援専門相談員、里親交流支援員、社会福祉士、臨床心理士が一丸となり、お子さんとご家族への支援を行っています。

家庭支援専門相談員は乳児院の窓口として、お子さんが乳児院で安心して生活できるよう関係機関と連絡調整を行ったり、お子さんとご家族の交流の際の支援を行ったりしています。また、お家に帰った後も、ご家族が安心して生活できるよう、アフターケアとして電話での健康、育児相談や家庭訪問などを行い、切れ目のない支援を目指しています。

分からないことや育児に不安を感じた時など、ご相談ください。

家庭支援専門相談員 平岩 葵

「すくすく 第 85 号」2024.1.1 発行

〈発行人〉 岡尾 良一

〈編集委員〉 小泉 菜穂子 前田 朋子 樋口 麻友子 長縄 友里